



「香椎保育所」さくら組の子どもの絵「わじろひがたはたのしいね」

ご案内

★ 唐原川の観察会 ★

立花山からの豊かな水を和白干潟にそそぐ唐原川、この流域を歩いて観察します。
唐原川にはどんな植物や生きものが見られるでしょうか？ 皆で観察してみましょう。
12時解散後、三日月山や立花山に登ってもいいですね！

とき：5月11日（土）10:00～12:00

集合：JR 九産大前駅 改札口付近(福岡市東区唐原)

講師：古野 正章 氏：九州産業大学助手

参加費：無料 雨天中止

持ち物：筆記具、飲み物、弁当（任意）、双眼鏡（あれば）

服装：長そで、長ズボン、帽子

主催：山・川・海の流域会議

お問い合わせ：TEL 090-2397-1424

（松田）



唐原川の観察会



2024年度「和白干潟を守る会」総会 報告

(今林 眞由美)

主な役員と事務局組織

2月24日に2024年度総会を開催しました。参加者は17名。山本代表が「和白干潟を守る会の活動は35年を過ぎました。大切な和白干潟の自然を未来の子供たちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。コロナが5類に移行し活動しやすくなり、観察会や干潟まつりなどの活動を無事に続けることができ、新しい会員も増えました。7月と9月に『和白干潟のラムサール条約登録』を求める要望書を市長に提出しました。今後も登録地となるよう希望を持って頑張りましょう。」と開会の挨拶をしました。



役員		主な活動内容
会 長	鳥 宮 雅子	観察会
代 表	山本 廣子	クリーン作戦
事務局		干潟まつり
事務局長	松田 元	HP編集・通信
事務局次長	田浦征太郎	調査・写真
	今林眞由美	記録・会計
会 計	山之内芳晴	名簿・通信配布管理
	田辺スミ子	助成金・監査
監 事	秋山芽生子	保全のつどい
	松藤真理奈	山・川・海流域連携
		資料点検



2024年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2023年度決算と2024年度予算

2023年度決算

当期収入は202万円で、主な収入は会費33万円、寄付金77万円、助成金85万円、事業収入が7万円で、個人や企業などから寄付金をいただきました。支出は165万円で、主な事業支出は通信、観察会、干潟まつりです。収支は37万円の黒字で、次年度への繰り越しは382万円となりました。

2024年度予算

当期収入は221万円を見込み、支出は192万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大切に使いしていきます。



(単位：万円)

	2023年度 決算	2024年度 予算
当期収入	202	221
当期支出	165	192
収支差額	37	29
前期繰越金	345	382
次期繰越金	382	411

和白干潟を守る会の活動を紹介します！（山之内 芳晴）

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体からの依頼を受けて、和白干潟の自然観察会を実施しています。昨年は新型コロナウイルス感染症が落ちつき6回の実施となり、延べ360名の参加がありました。また昨年11月に開催した「和白干潟まつり」は盛況で、約570名の参加がありました。



観察会

和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の15時～17時に、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共に清掃し、清掃後には自然観察も実施しています。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほかに観察会時の清掃も加えると年間18回行い、延べ780人が参加、735袋のゴミを回収しました。



クリーン作戦

和白干潟周辺の自然の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN（クリーンアップ全国事務局）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥類9回、漂着ゴミ1回）



鳥類調査

和白干潟の水質調査と砂質調査（毎月実施）

下の表は2023年10月から2024年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODが4の月もあり、改善傾向にありますが、透視度がやや低い月があります。透視度は、風速・風向き・潮位に影響されます。砂質調査については、昨年アオサが発生したことで若干悪化しています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いことになります）

水質調査結果 2023年10月～2024年3月

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン（PO ₄ ）	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.05	0.02
化学的酸素要求量（COD）	mg/l	5	5	4	5	5	4
亜硝酸（NO ₂ ）	mg/l	0.005	0.01	0.02	0.01	0.01	0.005
透視度	cm	75	95	47	70	53	70

砂質調査結果 2023年10月～2024年3月

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	11	7	10	10	12	4
還元層の黒色度	-	14	13	13	13	13	14
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	16	23	23	43	38	22
還元層の黒色度	-	13	12	13	12	13	14

山・川・海の流域会議

立花山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川集水域全体を保全するため、和白干潟を守る会から流域の保全グループに呼び掛け、2012年7月に「山・川・海の流域会議」が発足しました。立花山から和白干潟までの4団体と個人で構成しています。

2か月に1回定例会を開き、昨年は1月に「新春講演会」を開催、10月に「唐原川お掃除し隊」を行いました。5月の観察会は雨天中止になりました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

- 1/21 「一般社団法人 未来2016」様より寄付金を頂きました。
- 1/26 「あいおいニッセイ同和損保(株)」様より寄付金を頂きました。
- 1/29 「日本ユネスコ協会連盟」様より応援金を頂きました。
- 2/ 9 「MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)」様より寄付金を頂きました。
- 3/22 「(公財)イオン環境財団」様より助成金を頂きました。



ハマニンク(テンキグサ) イネ科 絶滅危惧 類(福岡県)

浜辺に生える海浜植物で、葉がニンクに似ているのでこの名が付いたと言われています。地下茎を長く伸ばす多年草です。北の植物で、北米からシベリア東部、日本まで分布しています。日本では北海道から本州の山口県まで分布していて、和白干潟は日本の南限自生地と言われています。和白干潟では、海の広場～唐原川河口までと雁ノ巣海岸に群生しています。春に穂を付けますが、温暖化の影響か、穂が出る時期が年々早くなっているように思います。今年は2月現在、もう穂を出しています。昔アイヌの人たちが「テンキ」という小型の容器を編むために、乾燥したテンキグサの葉を用いた所からテンキグサと名前が付いたそうです。ハマニンクには2つの名前があるのですね。



ハマニンク

アサリ マルスダレガイ科 殻長：4 cm 殻高：3 cm



アサリ

日本全国の淡水の影響のある内湾の砂泥底にすむ二枚貝です。環境悪化や捕りすぎに寄り全国的に減少傾向にあります。和白干潟でも60年ほど前には1日に15000人も潮干狩り客が訪れていたという新聞記事を見ましたが、現在は多い日で1日に500人程です。和白干潟と言えばアサリが有名でしたが、現在は減ってしまっています。環境悪化と業者による根こそぎの漁によるものと思われます。また以前のように増えてほしいですね。

アサリの表面の模様は皆違ってきれいです。和白干潟の海の広場方面では、300m程沖に行かないとアサリが居ませんが、和白川河口や唐原川河口付近、奈多や雁ノ巣では、沿岸に近い場所にもアサリがすんでいます。アサリは中国産や北朝鮮産が増えていますが、和白干潟のアサリは国産です。

オオソリハシシギ シギ科 全長39 cm 絶滅危惧 類(環境省) 準絶滅危惧(福岡県)

オオソリハシシギは和白干潟には春と秋に立ち寄る旅鳥です。くちばしが長くて上に少し反っています。春に立ち寄るときには顔から胸、腹が赤褐色になり、きれいです。秋には地味な薄茶色に戻っています。和白干潟には3～5羽くらいで立ち寄って行くことが多い鳥です。干潟に降りてゴカイを良く食べています。鳥によって食べる物が違うのでけんかが少ないのですね。オオソリハシシギは連れ立って行動して、次々に飛び立ったり降りたりしています。和白干潟を忘れずに毎年来てほしい鳥です。30年程前には30羽くらいのオオソリハシシギの群れがやって来ていました。ズラーっと並んだ姿は素晴らしいですね。また見たいものです。



オオソリハシシギ

12月19日 あいおいニッセイ同和損害保険(株) 寄付寄贈式



あいおいニッセイ同和損害保険(株)様は環境保全活動の一環として、ペーパーレス保険証券やWeb約款を導入し、その契約件数に応じて環境保護活動を行っている団体を支援しています。2014年よりその寄付金を頂けることになり、2023年度も12月19日に「和白干潟を守る会」事務所で寄付寄贈式が行われました。当日は同社小島支店長から山本代表が目録を頂きました。貴重な寄付金を和白干潟の環境保全の為に大切に使用させていただきます。

1月20日 山・川・海の流域会議主催「新春講演会」

今年の新春講演会は、北九州市育ちで九州産業大学を卒業されて都市の生物多様性や街路樹などを研究テーマとして活動されている古野正章氏に「唐原川の植物と生き物」と題して講演していただきました。唐原川の鹿児島本線鉄橋付近には川底にアシ原があり、コイなどもたくさん生息しています。香椎線の鉄橋付近では、川底にダンチクが多く、ハヤ、カワムツ、ドンコなどの川魚が見られます。植物はヤナギバルイラソウが見られます。九州産業大学北門あたりには、オオブタクサ、キショウブ、クズ、アメリカネナシカズラ、ナンバンギセル、オオキンケイギクなどの植物が見られ、川底にはモクズガニ、ヨシノボリ、ウシガエルが生息しています。上流域にはホタルの幼虫の生息場所として護岸にコンクリートのといが設けられています等、詳しく説明を聞くことが出来ました。(山之内)



ラムサール条約登録湿地を訪ねて③

ラムサール条約に登録された干潟や湿地はどのような変化があったか聞いてみました。シリーズです。
(熊本県 荒尾干潟) (松田 元)

荒尾干潟は熊本県の最北部に位置し、有明海の中央部東側にあり南北9.1km、東西最大幅3.2km、干潟面積約1,656haもある、単一の干潟としては国内有数を誇る干潟です。荒尾干潟は、2012年7月にラムサール条約湿地に登録されましたが、登録されてからは年々来場者が増加傾向にあるそうです。特に小学生の修学旅行等、子供たちが多く訪れているそうです。日本の干潟は、第2次世界大戦後現在に至るまで急速に減少してきました。全国の干潟面積は、開発による埋め立てなどが原因で戦後当時に比べ約40%も減少しているそうです。しかし荒尾干潟は減少しておらず、また有明海には日本の干潟の約40%が残っているそうです。環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査においても、2015年と2016年春季、2019年秋期調査で全国第2位の個体数を確認しました。荒尾干潟ではラムサール条約登録前から、干潟の保全や再生、干潟来訪者への対応等の作業部会を立ち上げ、「出来る時に、出来る人が活動する」をコンセプトに活動を続けているそうです。



気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)
沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)



** お 願 い !! **

干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険ですやめましょう!
干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係



2023年 12月

- 12/2 (土) バードウォッチングin和白干潟2023
- 12/3 (日) 2023年度冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 12/5 (火) 観察会グループ会議
- 12/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 12/11 (月) イオンイエローレシートキャンペーン
- 12/12 (火) 第35回和白干潟まつり第3回実行委員会
2023年度冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/15 (金) 和白干潟通信148号編集会議
- 12/16 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦は雨天中止
- 12/18 (月) 事務所大掃除

2024年 1月

- 1/7 (日) 2023年度冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/9 (火) 和白海域水鳥調査/2023年度冬期シギ・チドリ
調査2回目(博多湾東部)
- 1/11 (木) イオンイエローレシートキャンペーン
- 1/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 1/16 (火) 和白干潟通信148号発送会
- 1/20 (土) 山・川・海の流域会議「新春講演会」参加
- 1/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 1/31 (水) 会計監査

2024年 2月

- 2/4 (日) 2023年度冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 2/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/9 (金) 2023年度冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
イオンイエローレシートキャンペーン
- 2/24 (土) 総会/臨時定例会議/和白干潟クリーン作戦と自然観察



きりえ「風に吹かれて」

ご案内

第20回

くすだひろこ きりえ 展 和白干潟のなかまたち

日時：5月1日(水)～5月31日(金)
11:30～15:00

会場：レストラン「花もも」(日祝休)
福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

和白干潟のきりえ新作を12点飾っています。

ご高覧をお願いいたします

きりえ展20周年記念

きりえハガキ14集

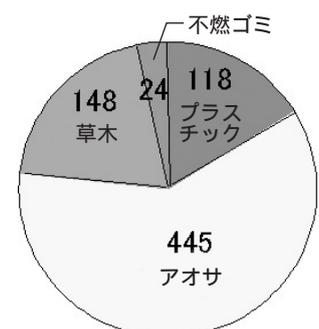
「和白干潟のなかまたち」

を発行します！

干潟のつばやき「プラスチックごみを捨てないで！」

和白干潟では、毎月守る会の人たちが干潟の清掃活動を行っています。昨年1年間のごみの回収量は735袋で、その内プラスチックごみの回収量は118袋ありました。ゴミの種類としては、ペットボトルやレジ袋のような大きなものは少なく、お菓子を包んだものやプラスチック袋などが多く、ごみを回収するときの状態は、ちぎれて細かな状態のものが多いのです。このプラスチックごみは、なぜ和白干潟にあるのでしょうか。燃えるゴミとして正しく処理されていれば、干潟にはないはずのものです。だれかが不法投棄したものが川を流れて干潟に打ち寄せられたものです。古賀市ではプラスチックごみは回収してリサイクルされていますが、福岡市ではまだリサイクルは行われていません。このプラスチックごみは、放っておくとマイクロプラスチックになって生態系にも悪影響を与えます。プラスチックごみは出さない、そしてプラスチックごみを捨てないようにしましょうね。和白干潟がプラスチックごみであふれないようにお願いします！

回収ゴミ(ゴミ袋の数)



山口県の阿知須干拓にあるきらら浜自然観察公園のビジターセンターで、1月27日(土)～2月25日(日)に「くすだひろこきりえ展～和白干潟の風」を企画して頂きました。2月3日に「きりえ教室」も開き、前日の2月2日(金)からきらら浜に行くので、一緒にきらら浜が見てみたいと田辺さんと今林さんが同行しました。職員の方が新山口駅まで迎えに来られ、山口湾などを見学しながら着きました。



ズグロカモメ

きりえは春夏秋冬の順に綺麗に飾ってあり、和白干潟のリーフレット類も入り口などに並べてありました。職員の方の案内で園内を散策しました。淡水の池にはカモ類が、汽水の池にはハマシギやダイゼンが並んで棒杭にとまっていた。動物園生まれのクロツラヘラサギが一羽ゲージに飼われ、周りに野生のクロツラヘラサギたちがいました。山口湾を望む展望台もありました。水路ではカエルの卵も見られました。センターの広い窓からズグロカモメが100羽程飛んで来るのが見え、感動しました。正面に見える「火の山」の姿が気に入り、スケッチして、いつか登ってみたいと思いました。

夕方には職員の方々とボランティア団体「葦の会」の方々に歓迎交流会をしていただきました。私が和白干潟の様子や守る会の活動の話をして、皆さんにも和白干潟に関心を持っていただきました。3日にはきりえ教室が午前と午後があり、沢山の親子連れが参加されました。熱心に取り組む人もあり1時間半では時間が足りないほどでした。新山口駅まで送って頂き帰福しました。有意義な訪問でした。センターの運営をされている「NPO法人野鳥やまぐち」の方々には大変お世話になりました。(山本)

★ 和白干潟の思い出 ★ 1 — (山本 廣子) —

私は和白や和白干潟の自然にはぐくまれて育ちました。人が育つ中で自然環境がとても大切だと思います。コンクリートで固められていく故郷、和白を見ながら、市街地の街づくりを見直してほしいと願っています。私が子供のころの和白干潟のようすを書いてみたいと思います。

砂丘を駆けまわって遊んだこと



1950年代の和白干潟は「和白子ども海水浴場」という名前前にぎわっていました。和白にはJRも西鉄も駅があり交通の便が良かったので、地元の人たちばかりではなく福岡県内各地からも潮干狩りや海水浴にたくさんの人たちが訪れていました。沿岸には海の家が20軒程立ち並んでいました。その海の家の陸側に砂浜が広がっていたのです。鳥取砂丘のミニ版です。砂が風で吹き寄せられて砂山となっていました。そこから駆け落ちたりして、砂まみれになって遊んだ思い出があります。砂丘の端っこにはスミレやチガヤが生えていました。砂丘の南側には松林がありました。松林の中にポツンポツンと家が建っていました。その中の1軒が私の家でした。



きりえ「和白干潟の砂丘」

和白は私が生まれた頃(1949年)にはまだ和白村と呼ばれていました。その後すぐに和白町になり、福岡市に合併されました。和白が発展するにつれて、砂丘も松林も開発されて家やアパートが建って行きました。現在の和白干潟沿岸には、アシ原先や雁ノ巣砂洲付近に砂浜が残っていますが、小さな砂浜です。昔、海の家陸側にあったような大きな砂浜が懐かしく思い出されます。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<https://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)	山之内 芳晴	Tel 090 - 8412 - 2663
クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel 090 - 1346 - 0460
広報/調査/定例会議	山本 廣子	Tel 092 - 606 - 0012
干潟まつり	松尾 満子	Tel 090 - 9651 - 8489



お知らせコーナー

和白干潟のクリーン作戦のおさそい!

日時：4月27日(土) 15時～17時

「全国春のビーチクリーンアップ2024」「2024干潟・湿地を守る日」参加

- ・集合：和白干潟海の広場 (東区和白4丁目海岸)
- ・主催：和白干潟を守る会 ・問い合わせ：090-1346-0460 (田辺)

「ハマボウを見る会」

日時：7月20日(土) 14時～15時30分

- ・集合場所：香住ヶ丘公園 (東区香住ヶ丘4丁目30)
- ・主催：和白干潟保全のつどい・問い合わせ：090-8412-2663 (山之内)



クリーン作戦



ハマボウの花

定例スケジュール

定例会議 (4/27、5/25、6/22)

毎月第4土曜日12時～14時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です。仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察 (4/27、5/25、6/22)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会 (4/14、5/12、6/9)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合
参加費：一般300円 中学生以下は無料 野鳥の会会員100円
主 催：日本野鳥の会福岡支部

会員募集中!

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち (その105)

シロチドリ (チドリ目チドリ科 / Kentish Plover) 白千鳥 [全長17cm]



(写真撮影：三宅 僚)

絶滅危惧 類(環境省) 準絶滅危惧(福岡県)

シロチドリは留鳥で和白干潟では一年中見られていましたが、最近では減ってきて、主に冬期に良く見られます。以前は普通種でしたが、現在は環境省の絶滅危惧 類になっています。全国的に少なくなっているようです。海岸の砂浜、河口、干潟などの生息地の減少や環境悪化のためでしょうか。和白干潟では唐原川河口域の少し干潟が出ている頃に、小さな流れがある所で20羽～30羽が動き回る様子が見られます。雁ノ巣海岸でも、干潟のくぼみで休んでいる様子が見られます。丸くてとても可愛いです。チョコチョコと歩き回り、ゴカイやエビの仲間などを食べています。以前は海の中道外海の砂浜で抱卵していましたが、砂浜に車が入り難いようです。(山本 廣子)

【編集】山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・今林 眞由美・松藤 真理奈
《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだ ひろこ

次号は2024年7月発行予定



【編集後記】山の桜がほんのり桃色に見え、春はすぐそこです。会の総会も終わり新年度が始まりました。和白干潟は私たちが生きていくのに大切な場所、小さな地球の大切なことを教えてくれる場所です。干潟のたくさんの生きものが、元気に育っていきますように。(松藤)